

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-0023
住 所 東京都港区芝浦1丁目1番1号
氏 名 東芝デバイス&ストレージ株式会社
代表取締役社長 島田 太郎 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東芝デバイス&ストレージ株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市幸区小向東芝町1番地		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第4条第1号該当事業者		
	☐ 規則第4条第2号該当事業者		
	☐ 規則第4条第3号該当事業者		
	☐ 規則第4条第4号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	28	電子部品・デバイス・電子回路製造業
主たる事業 の内容	ディスクリット半導体、システムLSI、HDD及び関連製品の開発・生産・販売 事業並びにその関連事業		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		4,965 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2021 年度 ～ 2023 年度 (報告年度 2023 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第 1、2、4 号該当者等）

（1）計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 (2020 年度)	第 1 年度 (2021 年度)	第 2 年度 (2022 年度)	第 3 年度 (2023 年度)	目 標 排 出 量
排 出 量 (t -CO2)	(実) 9,164 (調) 8,879	(実) 8,285 (調) 8,216	(実) 8,362 (調) 8,344	(実) 8,811 (調) 6,980	(実) 8,225 (調) 7,953
削 減 率		(実) 9.6 % (調) 7.5 %	(実) 8.8 % (調) 6.0 %	(実) 3.9 % (調) 21.4 %	(実) 10.2 % (調) 10.4 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原 単 位 等 の 活 動 量					原単位等の単位
	基準年度 (2020 年度)	第 1 年度 (2021 年度)	第 2 年度 (2022 年度)	第 3 年度 (2023 年度)	目標とした値
排出量原単位 等 の 値					
活動量の値					-
排出量原単位 等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第 1 年度	2021年度は事業再編・移転を顧慮した別紙の目標8,392t-CO2に対し実績8,285t-CO2と1.3%の削減を達成。主に在宅勤務の推進により目標に対しての上乗せが出来た。	
第 2 年度	2022年度は事業再編・移転を顧慮した別紙の目標8,308t-CO2に対し実績8,362t-CO2と0.6%の増加。主な増加要因は2021年9月に浜松町から本社部門が半導体システム技術センターに移転してきたが2021年度の滞在期間は7か月に対し2022年度は4月から滞在となり5か月分の使用増加が要因となる。	
第 3 年度	2023年度は事業再編・移転を顧慮した別紙の目標8,225t-CO2に対し実績8,811t-CO2と7.1%の増加。主な増加要因は2023年12月から2024年5月にかけて半導体システム技術センターから小向分室に移転開始をし、移転に伴い居室空調・動力設備の運転等二重で設備運転を行っていた為使用増加の要因となっている。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		在宅勤務の積極的導入により第1年度からの使用量削減に繋げることが出来たが第2年度より事業再編・移転等により目標未達が続いてしまった。特に第3年度は二重生活期間が4か月あり、連続未達となってしまった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		2024年度では6月1日を以て半導体システム技術センターからの退去も完了した。移転先では各ゾーン毎に空調運転管理の徹底を適切な運転を図る。また24時間連続稼働が必要な設備や居室について確実に申請を行ってもらい無駄な運転をなくすよう徹底していく。

（2）温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

東芝グループでは、2021年～2023年を活動期間として、エネルギー起源CO2排出量原単位を前年度比1%の改善としている。2023年度東芝デバイス&ストレージでは、前年比97%で目標達成した。
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	○空気調和設備の効率管理 ○新設、更新等における措置 実験室改修に伴う高効率マルチエアコンの導入 ○特高受電設備更新 ○変電所統廃合
第1年度	○空気調和設備の効率管理 ○新設、更新等における措置 実験室改修に伴う高効率マルチエアコンの導入(今年度見送り) ○特高受電設備更新(今年度見送り) ○変電所統廃合(今年度見送り。2023年度、2024年度に計画)
第2年度	○空気調和設備の効率管理 ○新設、更新等における措置 実験室改修に伴う高効率マルチエアコンの導入(今年度見送り) ○特高受電設備更新(今年度見送り) ○変電所統廃合(今年度再見送り。2024年度、2025年度に計画変更)
第3年度	○空気調和設備の効率管理・・・新棟入居に伴い建屋管理者と今後調整を進めていく ○新設、更新等における措置 実験室改修に伴う高効率マルチエアコンの導入・・・新棟入居に伴い建屋管理者と今後調整を進めていく ○特高受電設備更新・・・半導体技術センターを2024年6月1日を以て退去したため計画中止 ○変電所統廃合(今年度再見送り。2026年度以降に計画変更)
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	計画期間内において事業再編・移転等が行われたことにより取組み自体の見送りが多数発生した。今後は小向地区内の新棟に移転したことにより動力設備(空調等)の適正化に向けてビル管理者と調整をしていく

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()	○	小向分室：電気再生可能エネルギー（非化石証書付電力契約）をRDC新棟（イノベーションパレット）から2023年度中途より一部実行
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	本社分室 小向分室：広告看板照明用に太陽光発電設置（年間の発電定格容量：3,900 kWh）	H 2 5 年度
トラッキング付非化石証書権利確定済残高証明書（電力販売分）	東京電力EP：メニューD/グリーンベーシックプラン	R 5 年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム（FEMS、BEMS等）	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	○製品輸送の効率化 製品出荷における配送の効率化を図っている。
第 1 年度	○製品輸送の効率化 製品出荷における配送の効率化を随時、実施した。
第 2 年度	○製品輸送の効率化 製品出荷における配送の効率化を随時、実施した。
第 3 年度	○製品輸送の効率化 製品出荷における配送の効率化を随時、実施した。

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	○3R設計の考え方 製品の設計・開発段階から、リデュース設計、リユース設計およびリサイクル設計への取り組みを行っている。 ○包装材の使用合理化に関する取り組み 包装材の3Rを推進。 ○廃棄物の排出量の把握及び削減に係る対策 工場などで発生した有価売却物を含む廃棄物を極力リユース・リサイクルして最終埋立処分量をゼロとする廃棄物ゼロエミッションを推進。 ○他の者に対する環境負荷低減の取組の要請 グリーン調達ガイドラインに基づいて調達活動を行っており、取引先企業と協同で環境負荷が小さい調達品の選定に努めている。
第 1 年度	○3R設計の考え方 製品の設計・開発段階から、リデュース設計、リユース設計およびリサイクル設計への取り組みを継続実施中。 ○包装材の使用合理化に関する取り組み 包装材の3Rを推進を継続実施中。 ○廃棄物の排出量の把握及び削減に係る対策 工場などで発生した有価売却物を含む廃棄物を極力リユース・リサイクルして最終埋立処分量をゼロとする廃棄物ゼロエミッションを継続推進中。 ○他の者に対する環境負荷低減の取組の要請 グリーン調達ガイドラインに基づいて調達活動を継続、また取引先企業と協同で環境負荷が小さい調達品の選定に努めている。
第 2 年度	○3R設計の考え方 製品の設計・開発段階から、リデュース設計、リユース設計およびリサイクル設計への取り組みを継続実施中。 ○包装材の使用合理化に関する取り組み 包装材の3Rを推進を継続実施中。 ○廃棄物の排出量の把握及び削減に係る対策 工場などで発生した有価売却物を含む廃棄物を極力リユース・リサイクルして最終埋立処分量をゼロとする廃棄物ゼロエミッションを継続推進中。 ○他の者に対する環境負荷低減の取組の要請 グリーン調達ガイドラインに基づいて調達活動を継続、また取引先企業と協同で環境負荷が小さい調達品の選定に努めている。
第 3 年度	○3R設計の考え方 製品の設計・開発段階から、リデュース設計、リユース設計およびリサイクル設計への取り組みを継続実施中。 ○包装材の使用合理化に関する取り組み 包装材の3Rを推進を継続実施中。 ○廃棄物の排出量の把握及び削減に係る対策 工場などで発生した有価売却物を含む廃棄物を極力リユース・リサイクルして最終埋立処分量をゼロとする廃棄物ゼロエミッションを継続推進中。 ○他の者に対する環境負荷低減の取組の要請 グリーン調達ガイドラインに基づいて調達活動を継続、また取引先企業と協同で環境負荷が小さい調達品の選定に努めている。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

（1）事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	9,164 t-CO ₂	8,285 t-CO ₂	8,362 t-CO ₂	8,811 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	6,055 KL	5,687 KL	4,777 KL	4,965 KL
事業所の数	2	2	2	2

（2）事業所等单位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
本社分室（半導体システム技術センター）	神奈川県川崎市幸区堀川町580番1号	5,453	5,846	5,927	5,687
本社分室（小向分室）	川崎市幸区小向東芝町1番地	3,711	2,439	2,435	3,124

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度